
Angel Strike!

深月文乃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Angel Strike!

【Nコード】

N3542Y

【作者名】

深月文乃

【あらすじ】

普通の人間として、至って普通の生活を営んでいた高校生・ライナ＝エドワード。
ある日彼は、何者かに拉致され
気付いたらゲームの中に居た!?

プロローグ

ライナ・エドワードは、至って普通の人間だった。

普通の日常。

普通の生活。

何処にでもいるような人間・ライナは

しかし或る日、何者かに気絶させられ、縛られ、そして
拉致された。

．．．．．
．．．．．
．．．．．

まだボーっとした頭を覚醒させ、ライナは目を覚ました。

「ここは．．．．．？」

目が覚めると、知らない部屋だった。

「．．．．．どうなってんだ？」

目が覚めると、知らない天井を見ていた。

「．．．．．確か、登校中だったはずだよな？」

目が覚めると．．．．．見知らぬ女が傍に居た。

「ってか、あんたは誰だ！？何の目的で——むぐっ！？」

「静かに。」

抗議する俺の声は、しかしその「何者か」によって遮られた。

仰向けで、しかも手足を縛られている俺の口は、いとも簡単に塞がれた。

「．．．．．」

すつ　と、俺が暴れないのを確認すると

その女は手を離れた。

そして、名乗る。全くの無表情のまま。

「私の名前は、アル。　アル・アーヴァイン。」

「アル………」

そして、

「あなたの、力が必要です。かつて、世界を救った英雄　ライナ。」
なんてことを言う。

「えい………ゆう？」

「はい。あなたは間違いなく、その張本人だと。」

なんてことを言う。

それに俺は、こう答える。

「あの、さあ？」

「？」

「多分、つて言うか絶対にあんたは勘違いしてるぞ。」

女………アルは、微かに動揺した顔を見せたが、こう返す。

「何を、でしょうか？あなたは確かに………」

「確かに、俺の名はライナだが」

「でしたら」「だ・が！」

「………」

アルは、「何を言いたいのかわからない」とでも言いたげな顔でこちらを見る。

それに、ライナは言っただけ。

「俺は！ただの高校生で！！あんたの言うような英雄なんかじゃ、これっぽっちも無いんだよ！！！」

と、ライナは言っただけ。

アルは驚愕に顔を歪めたが、だがこれもやはり一瞬のことであつた。

「あなたが、ただの人間である事は存じておりますよ？」

「だったら………」

「ですがそれは、あくまでそれは、『現実世界での話』でしょう？」

「？」

わけが、わからなかった。

（現実世界では？何を言ってるんだ、この女は？）

「ってか、いきなり拉致って縛り上げておいて何を言い出すんだあんたは！？」

取り敢えずライナは今のこの、あまりに理不尽な状況について文句を言ってみた。

あまりに展開が謎過ぎるので、善良な一般人であるライナにはそのくらいしかする事が思い付かなかった。

それにアルは、こう答えた。

「ここまでお連れしたのは、二人きりで話したかったから。縛ったのは、暴れられると嫌だから、ですが？」

至極淡々と、こう答えた。

「・・・・・・・・・・・・・・・・。」

なんだろう。一発くらいブン殴ってもいいんだろうか、この女。とか考えたが、

残念ながら縛られているので実行不可。

「ああ、もう！」

あまりに理不尽な状況に、もう相手にまかせるしか選択肢は無くなつたようである。

「・・・・・・・・現実世界では、ってのはどういう意味だ？」

と、取り敢えず一番の疑問について聞いてみる。

それにアルは、

「ですから、言葉どおりですが・・・・・・・・。」

なんてことを言う。

「だからそれが意味分かんないんだって言ってんだよ！！なにか？あんたは現実世界じゃない所から来た、とでも言うつもりか！？」

自分で言っておいてなんて馬鹿馬鹿しい、と思う問いに、

「その通り、ですが」

アルは、そんなことをいう。

「は・・・・・・・・・・？」

驚いた口からは、思わず素っ頓狂な声が漏れる。

「ですから、私が本来居るべき世界は、あなたのいる現実世界ではありません。」

と、そのとき不意にライナの頭に一つの答えが浮かぶ。

あまりに馬鹿らしいので、考えの候補にも上らなかった答え。

（だが、この女の口ぶりからして嘘をついているようには見えないし・・・・・・・・）

「あの、さあ・・・・・・・・・・。」

そんな突拍子もなさ過ぎて口にするのも恥ずかしくなるような、質問をぶつけてみる。

「もしかして、ゲームの中から来た・・・・・・・・・・とか？」

・・・・・・・・・・言ってしまった。とうとう。

これで自分は、「中二病ワロタwww」とか後ろ指刺されても文句はいえないだろう。

それだけ馬鹿馬鹿しい事を、口にしてしまったのだ。

さあ、この女もさぞかし呆れた目で俺を・・・・・・・・・・

「その通りですよ？」

見なかった。

そして、先ほどのまでの無表情とは違う、明らかに嬉しそうな顔でこんな事を言う。

「あなたが1年前に魔王を倒したオンラインゲーム、『Angel Strike!』その世界、オルタナ。」

「は・・・・・・・・・・？」

「私はその世界の中の国の一つ ユクモ村の、村人Bでした。」

こうして出会った、攫われの元・英雄ライナと、村人B。
そして……

「今、再び魔王に襲われたオルタナを救えるのは、貴方しかいないんです。」

「かつて討伐不可能とされた魔王を、只ひとりで狩った英雄、ライナ。」

「貴方が、今の魔王を直接倒すしか、オルタナを救う方法はないんです。」

第1章”Angel Strike!”（前書き）

——俺がこのゲームの存在を知り、ただ一人のプレイヤーとして口グインするようになった、2036年の8月——

それは、サービス開始からおよそ半年後の馬鹿みたいに蒸し暑い季節のことだった。

第1章”Angel Strike!”

MMORPG・・・

それは、ネット上で多くのプレイヤー達が同時に同じゲーム世界を冒険できる

いわゆる「多人数参加型オンラインゲーム」

そのRPG版である。

電子機器会社である「アーガマ」から提供された、

「Angel Strike！」略して「AS」というタイトルも、そのMMORPGのひとつとして

サービス開始直後は結構な人気を博していた。

超大型サーバー『アトス』を搭載したその最新鋭のゲームは、まさに革命と呼んでいいほどのグラフィック

及び操作性を実現させ、自分の手足のようにキャラクターを動かせるとあって、

多くのゲーマーを魅了した。

――が。

サービス開始から約2週間後。

突如、当時最高ランクに位置していたプレイヤーが魔物に打ち倒され、

レベル及びアイテム等を初期設定に引き戻される――通常、魔物に倒された場合は多少のデスペナルティが発生するものの、

普通はステータスの微量な減少及びアイテムのランダムドロップ等、あまり厳しいものではないのだが――という事件が発生。

この異変を、そのプレイヤーはすぐさまGMに不具合として訴えたが、

こともあるうちに、GM側からの回答は「それが仕様です。」というものだった。

そうして最初の犠牲者が出た直後から、この「Angel Strike!」というゲームの本質がさらけ出されていく。

まず、初期設定に戻されたプレイヤーを襲ったのは、通常のモンスターとは異なるということ。

——これはまあ、デスペナルティが重過ぎるという点から察することとは出来るが。——

これはサービス開始時には明かされなかったシークレットの仕様である

『魔王の襲撃』という必起イベントのせいである。

これはプレイ時間が150時間に達したプレイヤーに起こる、回避不可の強制イベントとなっているのだが

内容がとにかくエグい。

|||||

|||||

・プレイ時間150時間を越えてフィールドを探索していると、『魔王』とエンカウントする。

・戦闘では、『逃げる』という選択肢は使えない。

・魔王に倒されると、デスペナとしてレベル等のステータス及びアイテム情報が初期化される。

・魔王のレベルは80である。

|||||

|||||

まあ、『レベル』というのは知つてのとおり、

そのキャラクターの『強さ』を表すパラメータなのだが

80というのは、明らかにプレイヤーの手には負えない数値である。ゲーム廃人と化して、レベルがカンストしているような異常なプレイヤーキャラならともかくとして、

しかも150時間という制約が設けられている以上、

絶対にレベルがそこまで上がるという事にはならない。

実際、最初に殺されたプレイヤーはその時レベル18で、魔王には

出会って3秒で殺されていた。

——とまあ、明らかにゲームバランスが崩壊してるだろオイ っていう批判が絶えず

しかしどういいうわけか仕様が改善されるでもなく

次第にこのゲーム”AS”は、ユーザーの間で「史上まれに見るクソゲー」として評判となり、

やがて次々とユーザー数は減少していき、

結局誰も魔王倒した先の展開を拝むことなく

ついにログインプレーヤーが一人もいなくなってしまったのが、サービス開始からおよそ半年後

——俺がこのゲームの存在を知り、ただ一人のプレイヤーとしてログインするようになった、2036年の8月——

それは、サービス開始からおよそ半年後の
馬鹿みたいに蒸し暑い季節のことだった。

・
・
・
・
・
・
・
・

「んで、これは一体どういう状況なんですか？アルさん。」
「……俺は、ゲームの中（？）にある何か牢屋的な場所で、
縛られた状態でいた。」

取り敢えず状況が全く読めないので、目の前に居る少女に事情の説明を請う。

「いえ、暴れられると困るので取り敢えず縛って地下牢でお話することにしたのですが」

「俺はモンスターか何かか？」

冷静なツツコみをお見舞いしてやる。すると

「嫌ですね。あなたが暴れたらむしろモンスターよりタチ悪いですよ?」

さらに冷ややかな、いや、むしろ嗜虐的な笑みを湛えて少女は返してくる。

「・・・・・・・・・・・・・・・・。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3542y/>

Angel Strike!

2012年1月5日23時45分発行